第 11 回：自然な動き

会長　田中 仙堂

稽古場では、歩き方、足の運び方を厳しく指導しています。座敷の中や、坐った人からの目線が足許に注がれる状況の下では、静かなすり足が、「自然な動き」としてとらえられます。足を畳から上げないすり足は日本人に独自な所作かと思いますが、テーブルに椅子席の間を、履物を履いて歩くときには、別の注意が必要となります。

「自然な動き」を取り上げましたが、単純に理解できることではありません。よく和歌では、「本意」という言葉で、周囲の自然の本来の美しさを備えた本質を捉えようとしてきました。「自然な動き」を求めることは、「本意」を求める感性とどこかでつながってくるのでしょう。

長い歴史のある文化的伝統を直ぐに解明しようと思っても難しいものがあります。自然な動きというのは、単純なものでなく、状況によって変化するものと捉えることができるのではないでしょうか。

平成 26 年 11 月発行　会報「えんじゅ 81 号」掲載